

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 JAPAN TruJama

雨  
荷  
書  
集  
下  
馬

特・別  
▲13  
3474  
16

特

門  
號  
卷  
13  
3474  
16

諱話浮世風呂第四編卷之下

男湯之卷

江戸戯作者式亭三馬戯編

○初編しょへん小あくるまく病人びじんがざせきする白地しらぢのゆゆふ子どもの腰こしを  
ふせうけ。うちんごのさうやをもきていくらあきかもん。片わ重ひよ性けいの盛物りょうめいとある。反ほん  
ふせの焼やきを「婆女ばうじねどく。あよ。あよ。二通りの婆女ばうじねどく。ヤドロ  
きびくまく体から。」  
といふ。ト入いりを。  
きのよ。  
皆まことの板いた。のう菖蒲湯あやぶゆ。「俗ぞくと速はやく。太ふと大おほい。わち暑あついの。アエアエ。」  
く。寒さむいト。ナ。ほ。ぬ菖蒲湯あやぶゆ。まく。ウ菖蒲湯あやぶゆ。まく。

昭和二七年  
六月三十日  
講談社

速の物ごよけれる所と候ど「まうき。此日の夜とあけ。家をもあさ  
ぬと。船菖蒲見るみ。おまえどまよ。雄菖蒲見るのも並  
まき。」  
「さうが。七夕の添泣跡の事。性美は夫。性夫は妻。  
いと。いと。」  
「沢山買ひ。」  
「後生頑ど。」  
是ぞ。たまね。

く。南無法蓮華經く。あとを詠ぎよく。お題目の也有る  
焼翁どア。安う徳。お祖師様の書。ほどこのご。安う徳十二支。  
お星まみの書と蓮華うふ。お月まみのあこ泥龜が居るだらう  
「勿体後。四すが南無のモヤん。もまきしと。お祖師様く。」免

立威まく。ゆる者ふも構。立威する。傍法罪どく。も上之様  
さうさく。傍法罪く。傍法罪し。うつゆい。評判ぐく。勿体後。  
く。コウ。番頭様これ甚下へ頃て写。勿体幸よく。そんまふ  
勿体後。うふ。頃。ねぐ。後生ぐく。ト。座りのとあぐ。うらう  
うや。アヤ。よ。大丈夫く。離をせく。ままの。お題目。びん  
題目。びん。も。お題目。今と。うちの。お題目。ごく。びん  
題目。びん。も。お題目。今と。うちの。お題目。ごく。びん  
居る。」勿体無く。四すがたう。「あれも。お物。ト。あぐ。まく  
で。」

店助「どうと色男」「さうに いた。色男、納まん様へどうたま。」  
 ちあやえ店  
 小さ大屋宿「べしやう。おうあに 小さ大屋をひきく。色まう様せ。  
 コウ、永々。じごうわんとうに。呂律りつがよろて手をせ。寛能かのう。ほ  
 でりと。題目百日の日課。日課ごうふ。もうびで。な。な治ら。足もや。足すや。  
 でどま。店助  
 大丈夫だいじょうぶ「ひにいりんぞ。又大丈夫だいじょうぶ。一体ねーのんよひくちやア  
 わ。他あその病びょうごらう。よひく。ナヨひくちや往いこう。医者いぢや様さまの。疳癩えんりや。  
 くごとよ。腎虛じきごらう。脾虛ひきごらう。脾虛ひきぢや。往いこう。から氣きぢや。  
 から氣きぢや。色の病びょうご。へン酒落しゅらくりう。「ちんやよ。ヨイくちやアまう

まう你まう「よひく。ごめんり。が鼻毛はなげをチトぬつて脰わちを掃除そうり  
 り。連つづくのすに浸ひまを拭ぬぐ。齒みを磨みがてり。ひて。其スウスウとすこ  
 こ。きを。えぞきざ。まき。込こむ音おと。ゆき。音障おとさうご。「やんはき。ゆき。色男わゆと。まちうと。氣き  
 はけるといす。ト口上くわにき。ひがそへ。目まを袖そででね。ひ腰こし。ぎとも。け。  
 ちう紙かみを出だして。ものを。まき。敷ひす。り。やぐ。白鼻毛しらはなげ。  
 伯母おとこねよ。ねよせ。歯みの歯麻はなまふ。かく。五ご十じゅうの。五ご十じゅう。  
 又また。通とお。二馬にま。下したの歯麻はなまふ。かく。五ご十じゅう。  
 まうと。ア。痴ちよ玉たま。ス。のう。番頭ばんとう。キ。色男わゆと。ね。がせて。かく。せ  
 ばく。に。惜く。おれ。惜く。思ふ。よ。サア。這入いり。ト。まう。かく。

ひそり入はよつまうてがどもく。ざくらぎのまひと戸へあゆうひそひく。おさゆる。  
あうとおづき。うなぐかわをうてあだくとえである。け内のうほつきひく。まみぐふ  
どうこめり。トド。あひりて裏の店助。うら。でくぶ。あきをもじそそももをくる。

りあある。が主のと金板うづく。ぎたあかりてはうふ。イヒ。イヒ。  
トド。ライひ免役。コウ。尻を除役。己がひ免ねへきまう。返差  
あゆ。ア。イヒ。ウス。返差を十文で這入る。そ。そ。そりや泡湯  
や吉。「ヲヤく。が。公。か。ご。唄うたまへ移せ。」なまねく。ウス。返差を十文  
で這入る。そ。そ。そりや泡湯。ウス。泡湯へ高とふ居る。そりや番頭  
月八。ウス。ぞんとう。水槽。そりや船頭。船頭。木柱。そりや檢校  
きよきよ。きより。そ

「檢校の池に住む。そりや金魚。」金魚食や善なる。そりや人魚  
すきよ。月八。月八。月八。

「人魚月並に會所で押さのう。そりや印形。」印形樂な。と。

や吉

そりや隱居。隱居。く。き。何。何。と。何。と。」腎居。すく。たく。

ぢんこ。き。ぢんこ。まき。

そりや沈香。沈香の金山。ありと。そりや金海嵐。」金海嵐。大きう  
な。大きう。小さう。小さう。ほと。すら。ア。あ。あ。あ。あ。あ。あ。連ア。あ。と。が  
う。と。唱う。歌う。え。ま。う。と。ま。う。の。イヒ。イヒ。」や。お早いの。」あい  
や吉

「月八。さんか。こ。この時。氣。唄う。そ。う。も。人。が。い。の。」ゆ。に。く。そ  
ど。う。も。人。ゆ。ゆ。そ。う。と。上方。唄う。品。う。江戸。半。太。夫。河。東。此

う。と。

きくよどさるよ。流行唄も諸國のひづごとく。下卑と田舎  
節のとゆふうじとども。<sup>かとこせ</sup>瞽女の唄みどりをもつてんもす  
月つき長唄ながなやすとよどへ音聲が清く。もやもご清音よすり。  
瞽女節めいじゆをもよして。そぞろの田舎唄かずらうた。だくわんあんせん音で音声がたま  
ゆすとまをうれづらう。チト久絶遠とおとせりう。ワニテ文句  
なども下卑げびきて。ほまく通とうきく。イエヤ。月つき  
さうとおりべ。潮来曲しおらいよりのぶ。さみのミヤニヤともやひ  
やせんやせんが癡きらむふをゆ。是も一枝通とくよもあり。種たね

狂きょうが若わい人の目先くまきのことを極きわめにまぐれしが。やうきやうき  
月つき潮来しおふるまは平ひらづ。氣き慷慨がいどのといふ通り者しやう。もとの財ざいが  
かわらり妙めうと組くみさ。詩しを宋元そうげんのよどといふ人も。お瞽めいのあゆ  
時代じだいへ唐詩選とうし明詩選めいしを讀よ。唐詩碑とうしひや明詩壁めいしげきで詩しを作  
りつくり。あるよりの東坡米芾とうぱくびが妙めうごとく。奇絕きぜつどとうりふくも。和様わよう  
一筆落いつし上で是これのどう。潮来しおがまさう。通と者しゃも等とう類るいさ  
いや潮来しおやうとういが。げごとも爰いの湯ゆで聽きすう。近ちかいの音おと  
月つきと冠くわん辞ことのほく唄うたがある。子こ冠くわん月つきと冠くわん辞ことて俗ふるよ

枕洞のゆきへ。ハテ子「傘の骨はうるまで何とせうといふ洞をうけて下の向よとまれぐとくらひすとひすへり。」レ。傘のト冠辞をもりて骨とほどけて下の向よとまれぐみどくふぶういやおそれ入るゆき子。真淵さんが今時がまくと朝来風とくづかゆとめらひて別よ冠辞考べきすやせう。根から見るまきとまきシートをうくふくの小助助とらああき名のあつ男がまくごちより入る。これ、洞づらふとあがごとれのをくじまぞのゆよあの字と根のまきとそや。俳助さんも早うまきのはくと。まきをりのゆくせあり。マ是もく。闇雲屋の吉く。兵備さんも早うまきのはくね。マ是もく。闇雲屋の吉く。兵備さんも早うまきのはくね。お結構みお日和様であざりはも。おまくさんへりも四よますあで。お仕合様でどさりはまど。バイく。此お天氣の山都令のやさんばぢやが。お暑さながく。ひどりのでばつてのキセウ。同様でございまとす。兔角狂歌がほようがまのすと。ハイく。まくふござりはくと。別とおまくねを肥満でも出なまくら。お暑のお腹を。お大体極とぞく。ござりあまよ。バイく。トキニ。室を早お盆が参り。ぬくと。おまくさんでごくおぐく。さうぞおとうりあわねとござりませう。バイく。エモ。お大体極でござりませぬ。バイく。まくし杯を

もひきのむ。も産ねも。もぐ。もまさん。他人のむ。も歩せ  
やまと。ハイ。又外れも拂をひそむも。もあ。またか。もあ  
え。ハイ。も節句前あらびで。もさりはと。ハイ。『それのみより  
社うごさりまとす』<sup>ト</sup>ハイハヤ。日三トナスモ。先祖さみのも産ねで  
さきのはと。ハイ。もゆがひゆで。もさりすと。『わんよ。もあて  
石臼が入なまくらう。虎どんでもさりゆ生きるほ。』<sup>ト</sup>ハイ。此方  
かくりとせて上す。ハイ。どういはして。やとくも宿根<sup>ほ</sup>  
あ。立れす。イエサ。室<sup>ゆ</sup>。毎度も宿さぬの。道異<sup>じ</sup>に。被借<sup>ひ</sup>  
ます。おづかる。も益の。山客<sup>さんぎく</sup>さぬで。さぞもとくに。迫さあ。もさります。  
行く。も袋<sup>ふくろ</sup>さまや。お内<sup>うち</sup>さぬが。ハヤ。お大体<sup>おおたい</sup>さぬで。おびきませぬ。  
イヤ。四就まで。ぶせ。一。皆<sup>みな</sup>を。山<sup>さん</sup>涂<sup>ぬ</sup>切<sup>き</sup>さぬに。娘<sup>むすめ</sup>を。もさし  
下さりぬ。ヤモ。おづかる。ハイ。太<sup>おお</sup>さを。下<sup>くだ</sup>と。と。と。  
ご。あ。も。山<sup>さん</sup>。四就<sup>よ</sup>。其節<sup>そのせつ</sup>ひく。山<sup>さん</sup>就<sup>く</sup>を。さぬ。なう。ほ。『はりう  
さぬ。』<sup>ト</sup>ハイ。おさひやはせん<sup>ト</sup>ハイ。ハイ。イエモ。お。が。と。底<sup>そこ</sup>と。さり  
ほ。ハイ。さぬ。さぬ。が。ち。さ。あ。も。が。さ。な。が。ト。石臼<sup>いし</sup>を。お。

お手近へお出なまむと先あられぬとすうふ。お店のおかぐ  
ちアキリあられまくと下さりまとゆふ。ハイくナニ。持せて上  
ませうナニ。エテ四物倅シロモノサムのどうしにておまえん。アハ。イヤモシ。泥染  
ドマ。ほまが糠ウツバをもとやなまくとる。これもありがい  
お米コメうら分身ハーフにしてござりのでござりはま。やまび草ヤマビコ菩薩ボクサ糠ウツバを  
かずくふまが柘榴ザルビア又タチバナまちじてお捨スルなまくといふ。がくし  
出で了房リョウボウのお人ヒトさあでござりませう。おはくひなまはやどま。  
家カミそとみゆりゆととの細溝スモモリへお捨スルなまれば。宴イフも様マダラせん。  
湯ヨウの一派ヒヨウとも費ヨガフにならずせぬナシ。さあくさ子ハム。イヤハヤ四物倅シロモノサム  
外スモロのぞシテざううどちのそとゆあるナシ。吉ヨシ「これへつるきのほ」ホハイく。  
小あけコケさう風呂フンロのぬをよんとシテ。風呂フンロの中ノミの湯ヨウ「ハイく。  
星ヒル」ト小桶ヒヨウ一ヒヨウセミ吉ヨシ。風呂フンロの湯ヨウ「ハイく。ハイく。星ヒル」  
歩ハシ一ヒヨウ。その助アシが多ハシ。トねづを●風呂フンロのきとの方カタ。  
もとモトがく板ハタケであざりゆと。園イヌ。○風呂フンロのきとの男オトコ大喜ハハキ  
とうとめりうへと。さるゆきくゆたとある。その終ヨハシ束ハシ今朝モモ  
をゆう。をやふアヒ畜生ブタや。新内シンドウ。こそくられ役ヨリ鶴吉タカヨシ婆ハハさんが  
でござりだナシ。おの婆ハハさんハラあハラせナア。あれは鶴賀タカガ射スル門モミの銭マネ  
そくスル。祖シロの家シロえどとよ「道シロど品シロが上品シロ」ナハア。やうそり宮ミヤ古跡シテ

てあへぬ。コウ。新内で女を迷ひせようといふ腰。家うち遠く  
居トアヘモのり「新内」が又をゆう手と。園の咲ふあらひ  
スや。新内と新内がまきあらア。新内や 右や左の且那さん  
えん。トモモク「何も後生とぢや也」。見え「ほひよ拭の身  
むつマヒヒニ「ビラシ」と。畜生め。三計食うて屁汁撒  
きやアグ。酒汁食うておはなうらまこまくね。うひを  
是を唐士か称金山の通り。トモフ折もちうる。中の申六と「ヤハ  
あらわらア。うど奴ぢやア種くエ。湯の中へ机會の床」といふ  
けふる。やつちイ傍りや。新内と老後のそろが。体。うち  
除きやア。誰づれ淨瑠璃。脳天。う。腰を浴ちやア。サア  
どうでも出やア。れあるい所で勝負を。トのひなと風景。ヤイ  
新内のまこと。野郎。先出やア。れ誰ども。りや。が。你。  
ちう。うちの中山さん。どぞ。コレヤ。う称金山も。宴へ出まや。それ  
うぬ暗ひ。正で。わくや。がまく。が称金山も。まほ。岩見銀山  
風う。う。でも食。まく。猫が屎ぢやア。と。あまし。ね。ど。何  
と。ありて騒。まやア。ぐる。と。んち。まく。ア。湯の中へ。先へ。と。川端華

が経け。ニ番頭氣をよじて、主ひバ。西瓜玉蜀黍のう  
う。每ヤ馬鹿雞子のさうき承が出來りもちれ後サ。ギリ  
でもむねねが對人。コヤイ矢塙の娘や水茶屋の小女と對  
ふてちゆうわことねうととく的が遠い。サア片瑞うか  
ぞれ。圓穴也。トアキヒタモトアキスホシヒト。おぞ  
中六。てらえ又。きみが社もてノア。片モトウラモよびき牛て法くぢそ  
りやア。全体き。ハッ大國家恩きやアグロゼ。土地下人  
り種植。時々あらぐ表の風ねが見子す。五をあらやアが見す。

あり。たう。風ねが面の野郎を。トア。小捕で打ひ  
トア。キム。前井共。まとせちやア。簡き。種トア。ひる  
もひる。民も。てそ風は。入と風はの中の人。ぐちきの。のうて。と。苦  
極き。せんきよ。する男ども。こもくと。上へ。あがり。うき。と。おきて。きりの。と。苦  
早。足。ふ。虎腰の。福。奴等。す。せ。中へ。這入り。やア。外へ。金。やア。ぐ。『途  
を。通。』  
ヤア。ぐ。ても。回。大。概。あ。居。ノア。陰。押。の。筋。す。と。地。獄。済。ノ。博。』  
ひ。ひ。ま。や。び。ご。野。郎。と。『大坂炒。の。家。蓋。び。口。地。震。と。ひ。ま。ま。つ  
ほ。ふ。び。う。ぎ。や。び。ご。』。『。彝。臺。』。『。博。』。『。ホ。イ。志。毛。』。『。博。』  
『。東。』。『。北。』。『。南。』。『。西。』。『。主。』。『。大。坂。炒。』。『。家。蓋。』。『。地。震。』。『。十。六。山  
主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』。『。主。』

お詫びの言葉をうり「且那さんへ。お力さんをお連れておまけに」と「ヨイ  
の小見をほれまく。「且那さんへ。お力さんをお連れておまけに」と「ヨイ  
き」  
まあこう。ア邪魔う坊主めじ。あらうと這へねがつのサ「山中はこいを  
さんへ今日もお頭痛がぬるる」と。乳母さんひつと。トヒリス  
福助えも「サアへ着物をねぶせや」「ナム。サニシミ。お波を。お波を。  
福助えも」  
福助えも「サアへ着物をねぶせや」「ナム。サニシミ。お波を。お波を。  
福助えも」

「サアへ着物をねぶせや」「ナム。サニシミ。お波を。お波を。  
福助えも」  
福助えも「サアへ着物をねぶせや」「ナム。サニシミ。お波を。お波を。  
福助えも」

「サアへ着物をねぶせや」「ナム。サニシミ。お波を。お波を。  
福助えも」  
福助えも「サアへ着物をねぶせや」「ナム。サニシミ。お波を。お波を。  
福助えも」  
福助えも「サアへ着物をねぶせや」「ナム。サニシミ。お波を。お波を。  
福助えも」  
福助えも「サアへ着物をねぶせや」「ナム。サニシミ。お波を。お波を。  
福助えも」

お辺で錦武藏の龜甲で黒ひらうどみの腰を。ナマと足をまぐ。  
お守袋をお贈るよ。アヤー。サアはく。ナマが寛へ形へてもひて。  
おとうさんへおばなまく。サアお抱っこあるドリヤよ。  
ト仕事の手をまく。「サアお湯どく。アヤ苗桶の中へイヤだ。  
アヤ。アヤセ。アヤもぬごの坊が湯が好い。アヤ拭ぬぐいて  
ゆりませう。アヤお髪をあらへます。コソヘ初や。アヤの桶へ  
湯を二度汲んでく。アヤ。ト高くもまくして下桶をひら。アヤ  
ゆがてお湯をくぐらせる。男湯の中おわらがちうきのあ。福助  
小児のくすみのひも。アヤをくぐらせる。アヤをくぐらせる。アヤをく

ちと洗あはまわらう。コリヤカ。サアシ不レい。もうちことをどくしてこまひ。  
ラカ虫ウもぐるレ。あリがレ。あすトかカをカくそホラ上ふル。  
キミタカくミタシ。よク壁ハせミぞ。うカも行水きみのはりく。  
中ハ入マまア。只シ苗桶アガツの中ハらア。さカぶ上よシまセう。室ウ  
逆ア上カ。ナカ。室ウ上カまセう。何モ。初モトトアイ。サア浴衣ゆきを  
ひギびア。アイ。後ハ。ナカ。モトアイ。サア浴衣ゆきを  
のモ湯ハをアくシ。キムく。お復キの腰ハ痛ハくム。よ。  
そりや上カざム。アイ。ナカ。モトアイ。モトアイ。

あリがリとモ。ハク。德トはヨ。まセわル。モトマシ。初ヤ。うカ  
拭テてカなヨ。コリヤカスカけル。ジミトア。キムく。して。禁シ  
拭テてカひム。モトアイ。もチ。行カうル。先ハも出よア。アイ。うカ  
スド。おほ胸ハ。トリ。ヤハ。よシ。這ハ。トリ。風ハ。サア。よリ。拭ミ。サア  
モエ。おほ胸ハ。サア。經ハ。トリ。アハ。リヤ斯ア。モエ。胸ハ。下ハ  
の筋ハれカへ。塙ハたマで。さク。サア。ちムとモ。そレで。  
上ハきム。おゆさん。是モ。アハ。下ハ。ジミ。下ハ。ジミ。是モ  
まシ。徳モ。えム。トリ。モリ。是モ。小判コバンで。射シ。

「サア、おとさをめどり初まつておきなよ。おとさへも利は  
ざるも見えど、おとさへ町」「おとさへ町」「何丁目?」  
日「おとさへ町伍丁目。あつても出でへるひうえ」「おとさへ町  
えども下女」  
何丁目「三丁目さ」祐「三丁目」祐「それへ」「叶屋福助 榊徳本云  
モヤヨクひなごと。サア、衣をやて、帶あいをあわて、足あしを通町の  
方へゆく。坂さかりおせうす。サア、ひだりへト、おとせうーのまかじとト、おとせ  
らまうと」と本田よ結ひ、「あるゆすもきまどりしめつを被川村魚  
の名のもじづうてふもきひと居トタリ。きり、とくわぬのまじ、鑿さくまなみ  
まももへ島しま。今もアまみみぬがる風体。うとうきの國セト田のまじくさきま  
くらちりのひとおみとのをがくもあひ赤まつらをまにうそ入る」

署あひもく。年とえとてふみ。署あひもくの人に倍ひく。後う  
りふせ。サアとおとさへ今いまの二才子若わよも負おれおき。ごく體からだ  
ちよ立たつ極きわ。年とえとてふみを老おもととひかひもひづひづぢや  
ゆくよナア番頭ばんとう「きのうおきんおきんも出でうせく」ま「ヨイ。中六なか、早はやう。  
めど民たみ。ニレこが、宿しゆく専せんアをひのいてあへまつ」「ナカサ。え  
種たねのき「フム。そんうひりがな。さくへとふアシキ勇いさぎんで木葉  
詮とき算さんともあふ。ヨリ。お主お主もあておまられ。男おとことひまく  
ウツコムに半はん強きょうとるアヒチャア種たね。まつりのう遠とほて安やすま

といふ時もア。友子友達への面づど。そじらヤア水盃でもと  
かア。今。の。看。者。昔。が。達。入。る。の。大。の。糞。ど。み。と。骨。箱。と。な。く  
グ。ち。く。う。め。う。く。え。ち。や。ア。蚕。の。卵。ど。と。お。の。す。れ。本。の。み。よ。お。う。う。  
若。い。時。代。の。行。作。と。る。雲。近。万。里。の。遠。ざ。ア。金。神。長。立。即。ど。ん。と。熱  
の。白。岳。清。風。と。の。ま。く。す。と。き。ま。く。ハ。シ。唐。の。せ。う。ご。の。射。代  
の。を。船。一。ま。も。笑。て。お。ま。れ。お。手。ま。う。の。後。ま。ま。か。あ。こ。と。ど。バ。テ  
お。く。う。若。い。時。代。が。強。敵。ハ。と。お。り。ヤ。ア。甚。又。し。う。と。ま。く。と。喜。え。も  
大。造。ま。と。よ。お。じ。う。親。父。ど。ん。の。一。ツ。清。風。と。の。鉢。蓮。は。た。ん  
度。の。す。う。に。半。鐘。市。を。う。そ。の。半。鐘。が。す。う。に。風。陰。か。く。セ。と  
い。が。わ。く。と。だ。さ。ぶ。が。わ。く。も。男。一。足。よ。ナ。ア。甚。も。お。し。と。あ。て。き。う。せ  
ぎ。の。が。一。ア。待。ち。ず。れ。ト。り。ふ。そ。む。う。じ。じ。か。ま。ぎ。の。律。五。古。卷。一。肝。大。く。ま。え  
の。ま。ひ。な。ま。る。通。り。と。ぞ。て。の。す。う。昔。ハ。遠。ま。と。芝。居。の。ね。言。う。ど。ゆ  
荒。る。す。う。一。み。う。の。ぐ。う。け。今。じ。や。ア。荒。る。師。の。む。じ。う。が。暮。る。と。う。す  
人。も。と。き。う。い。荒。る。師。が。一。息。ふ。と。ゆ。く。と。二。十。人。ぞ。う。の。む。じ。く  
役。者。う。揚。幕。の。方。へ。吹。と。と。さ。わ。る。イヤ。ハ。ヤ。と。ま。う。ど。く。勢。力。が。え。く  
り。の。き。今。時。そ。ん。ま。る。と。う。て。ま。ま。い。見。物。が。だ。ま。う。そ。く。わ。な。う。

かゝる男達などは出端からほんの少といふのが有り、慈悲を  
まざとまざのき男達がまざと。ナゾの役ふたりと福くら  
りのを長じて見物耳アリとあして笑居アリ。

當時をまぐともなりふ。役者も座角シテコウで見と早  
ままであるがを毎世の中。まざと山腰サンマツの圓扇カクセイせりぬ。  
そのたゞ賣ミルのせりぬの朝比奈のぼく様ヨミヒナ、對面ミタケのつねを  
といふのが瘦切スリカツ。今時の對面ミタケのつねへ短くはまづいき  
ひーのゆか面白アマガシい文句モノクレとさうしてかねまへ。

優長ヨウジョウだくはれやせりぬを掛合ハサカてやさらうが。今ぢや  
流れリュウがくれどモレ「さうよ。其ひまゆべだんまりの幕カネ行角キョウカク  
で。この出合ハサカ小まじがいぜ」そぞぞソゾゾ今イマの虎トラと對人ふ  
まわぬ役者ハサカが二人坐シテだんまりとうがんぱりとうご。何う  
にうじうじうじ食エサて幕カネをちよチヨとある。とと壬生タメハ言ハシ  
ヌをすで体タタキのまゆ根カネづくふね「われがむし後アフタの幕カネ  
係キラふうふア「傳タマようよ」といふ。あちこちあみを解ハシメせぬこと  
がく。今もまた敵役アキヤクも冥アメニの師シも出アリでござりうる。

そぞらうるるの時もと敵役の面あわが藍隈あいざなとやらひて。彼  
こ隈あいざなをどりてへん隈あいざなとなりひよせ。隈あいざなをどりて古風うきふうで畫  
。あひあハテサ。寔まことう正脉まさみ。コテ。藍隈あいざなでかづねぶ赤あかりほき。  
えびこうじえびこうじ糸いとをいとへゆるととどりて敵役あわひとあれすとい。板いたまま立役たてひの目めのうちへ  
の荒あらみみ師しを赤あかの筋隈あねざな又またを赤あかつら。コテ。只ただの立役たてひが目めのうちへ  
ちよのと紅べにを付つこりのき。そりや。金勇隈きんゆうざなといふのびづらぬ  
ぢや。自隈じざなをりわる者ものはねへ。門門之助のしゆや今いまの助のすけ高たか至いたが善よ盛  
のじよじよ。アシムアシムがちうてまごごめ。蝶テバ風度ふうど大おほき。ヤ天あま舞まいや  
勘かんをうるやど。敵てきを藍隈あいざなでもす。幡はた風ふうの狂癡隈きょうびざなといふ。青  
筋あねをナリナリと縮くじて入いる。大秀だいしゅう鶴つるも。トトものうちへ  
藍隈あいざなで。アシムアシムがちうてまごごめ。秀ひで鶴つるわづり。ら  
白面しらめんかなる。アシムアシムが見みらら。ア秀ひで鶴つるわづり。内  
ととああででととああゆゆ。孰だれが實じう悪あくうつつりませませせ。からからととふ  
ななあありりのの子こへへととれれよよまま。あありりのの子こ。ままざざへへききそそんそるる。ちちや  
縫ぬいばば方かああ二に。戈ご子この財ざい代しろや。大おほ洋ようととつつのの有あう。近ちかに  
ささるる。ううかかくく。ア大おほ洋ようととつつのの有あう。社しゃ納なき。

勢府中さうの役者やくしゃがひとで出でて。あ大將おほな將まつ馬うまを繩のて左右さわうふき  
きよみがまゆきよみ「再會まゆきよみ」と云いひりて。あ方かたがみく三合さんごう子こをあう  
く止とどて不動ふどうの神牛じんぎゅう。す賀がおとう土嚢妹どとううのすのすの  
押牛おしう。いやハヤシキ事こととも云いう。ねがなうとなうと「もへんもへうと  
えちやア年下とくさもへうともへうと大相延おほあいのをえみそえみそうア。サ  
かもうふらえふらえてのまとま「うんのう大詰おほづうけ。新臺しんだいの  
大鷦鷯おおむし小役者さくしやのとくもととくもと乗のて居ゐるととそれが勝かつくせりあげる  
うると下さうと大相延おほあいが大荒おほあれでせり。きのむちむち大番臺だいばんたい

を大考力おほこうりきの柄つかの先さきへちよひよとほへうけて。撫なでり呑のとト腮あざへあく。  
白眼しらまなこのせり牛うし。「今時いまそんそん狂言きょうげんを誰だがうそうそて居ゐる。  
おうおう「ハテハテお主お主もんのそねうひり後うしり。」聴きまされ。ととうね云いふ  
りのどのど。地ぢと狂言きょうげんとの差別さべつ。ととうかうかス「さゆうさ。甚相延ごんあいの。」  
よせぬよせぬ。すくろり其形そのひがと云いふ。ととしがよきの人家じやう獨眼どくがんなう子こ。  
名なぐろなぐろ「つうちつうちもあら居ゐすと。」人形にんぎやうの不作ふさす。ととうけ  
喰民きんねんををうなうな。近ちか坂東ばんとうを取とうの裏うら子こ。  
どどアア「わからずわからずどものほへ吉五よしことひしょひしょと。板いたを家いえ構がぶ

あく付。おとし。おとし。一面の宝船で。今もとよの通り。熟役者。殊べて  
 乗居て。せり。上。まうる。ト。下。ふ。家構が角蟹の荒ぶり出ます。  
 あまとざとのぞ。彼寶船をさへ。上。うづくのせり。や。き。あ  
 みねが家構が時。かく。室。うよ。ど。利。安。み。なり。は。く。程。云  
 と。地。との。差。別。が。ぐ。ん。ご。「今。ぢ。や。水。も。本。あ。と。ま。い。す。と。」  
 やんと。う。ふ。食。ひ。芋。も。やんと。う。の。芋。を。洗。つ。て。鍋。へ。入。と。く。やん  
 とう。に。考。え。ア。セ。絶。ぢ。や。ア。見。物。が。食。え。ト。種。ぬ。も。角。も。本。生。  
 本式。ぐ。か。く。う。ら。や。ア。ス。そ。も。回。あ。く。ね。く。な。「それア。す。れ。お。主。  
 等。す。ぐ。や。う。ま。く。び。う。ま。の。く。役。志。も。骨。が。折。く。ア。後。ゆ。と。ぞ。う  
 そ。る。ほ。う。り。ご。真。劍。を。ね。り。て。敵。役。の。首。を。や。ん。と。う。小。斬。て。湯。ゆ  
 も。や。ん。と。う。に。惚。つ。く。女。形。を。只。の。か。が。そ。う。す。に。な。う。と。ぞ。う。  
 とき。ま。ど。ら。  
 時。の。陸。も。洞。羅。を。た。り。こ。物。が。本。境。ゆ。く。る。彼。絶。も。あ。ざ。ん。  
 と。た。い。く。わ。け。う。今。ぢ。や。ア。竹。筒。へ。焰。障。を。ら。お。て。本。波。炮。の。焉。と  
 あ。せ。る。万。ふ。が。自。由。よ。う。と。う。と。う。が。な。う。く。じ。う。一。の。役。志。の。焉。と  
 で。ま。ゆ。く。ア。イ。寺。時。の。流。俗。と。ん。じ。ひ。う。づ。ら。大。世。日。の。天。界。か。扇。子。  
 ゆ。ぎ。く。ト。喜。そ。す。う。づ。ア。め。の。声。を。ま。く。と。春。め。り。て。も。う。き。り

あきづけ。七年す年まろ。そり扇をさす。「まよりうふえ日の朝をも。  
沙魚賣。福魚の草賣。あとづまと。さもくえ日めいとむら  
ごづか。福魚の草の今もがつへござくを。沙魚賣の声をひづ  
せふもがづるが種へ「そのうつ拂扇箱を買ひづの毎日目  
うし。おのせと拂扇箱へごづト。りふ声がねの内へ。やと  
えるが。扇ふくと大まみ遣ひ。」「ぬののまの早のとさ。  
納豆をとくせん。アドヒラハタをなべて食ひづと。りづ  
居るよ。ちうとくか。月のモド。あくと納豆けい。「せんうさもあ  
霜月ほふた。と題づても。りとや道豆くの高もあま  
せぬ。イエモわづひとあくす。がめ。お江戸よ産れと。もがく  
みみ。年中自由がま。初物を一ぞんづけ。食ひづ。ぞの外  
青物よせよ。魚類よせよ。四季ともに。是一種。多ひとつかま。が  
ぶづの。あくす。「そわづく。榮壁よ。げじま。ぐのじま。と  
ちくとど。「イエモ何うりと。の四季。す。絶。ど。板。又。れ方。す。牛。せ。と  
一切用を。是と。水の。魚。お江戸。小。産。れ。と。元。ハ。豆。が。牛。出。す。も。魚  
せ。う。芋。と。仔。付。よ。實。の。入。り。の。そ。う。自。然。あり。あ。せ。る。植。は。せ。

りつどぐと前付がひびとひづるもひちや助き。おまへこにしが  
先達をきる所へあると。其國へ魚がりつまうて下座さる。此位  
の魚。いやわんふ魚尺。はぢくね物。どとひづる。ほどもひぢくね物  
を。うそを。程の鰐が三十六文さ。子あま。肝の鰐れを活びす。おまへ九人や  
十人で食切らぬやどの大鰐。が三十六文。ごく。肝身骨骨の方と  
二拾く買てさて。オふく。サ裏がもつきよ。かんじんの大根をやまと  
ひるが大根がすい。子不自由がて。家すの下を江戸の虎よ睡せ  
とい。中六もゆど民もよく聴き。され。さうりふ利尾。ごく。子。

外の国を不自由。それより大根を買ふ。也道の六里より  
孫がうひといふ。サ裏がて。レんを雇つて買ふ。ちとふ。其旨  
のすに合ひ。又合ひ。亦日雇錢のとく。も百五十もやうて。  
大根の束。一本。六十四文。もせう。却合ひ。二百二十も牛。大根を  
買ふ。み鰐。一本。十六文。がく。いやこん。も相違。すもきい物  
さす。かく。の鰐。が一節。九文さ。それで。其土地。が海へ僅一里。あ  
ざうも。もき。湯がなひ。自殺と安く。ある。そと。又。お江戸  
のゆり。がき。ほ。海へ一里。ゆる。所。が。少。免。じ。江戸。お。す。と。え。

お立候。お貴ひさまへ。旅手てゆれじう。たどり銭金を積て  
まうひでもう。いはくのめをそぞろう。身のせあき。もすくさん  
参よし神酒を納みけり。成田さまの旅位がせきの山ざら。

先て又よまし。徑行かうあとう大かあり。ほきよ。トヨモウが  
坐頭の坊の。十四経とまひまく八人藝の声りと。手之三墳。  
声とちぢく。つよよやどまの軽き度と。足とえり  
從藏走至手手之三陽。從手走至頭足之三陽。從頭  
下走至足足之三墳。從足上走入腹。ツテコテント。テコ。テシ  
コレ權助ヤ。どうこうお出まくと。モタナリ。アイトニ。ト  
音と。ト節の

まゆく風呂のトライドン。トトソ「イ隠居爺がすま」。トダメ隠居爺  
中のあだ名。コレドク。たりと。わねどりひつてかくのふぞんざのよやう。  
ゆ隠居さんがあ出まくは。と。りふりのび。そりや。まやい。が  
早く寔へお通。ヤセ「ゆ隠居さんあ出なまくは。声を「あ。」  
きの「おきく。あまくは。と。」  
どうで。あまくは。と。まく。「ひきこのたまぎく。よくらう。どちら  
キロナル。声よくらう。ひきこのたまぎく。よくらう。どちら  
なまく。こまく。少僧。サク。脚本のさまで。權助もまた。權助のど

「ひのきのさよだ。アトモタヒヤセウ「てあくもうかうたを。  
さきの「桔助がうすすき」いッ。隱居ぢひととくちうれ  
キロ「小僧がまう居うよ。てあくどうむかうれ。キロ」「だまうの  
え神」よきあわる小僧ど「アテコテニトニ  
キロ声「アモトトト。大をよがせど」「小僧どまう居うよ。  
さきの「だよりの天神」ワトヒシマドヒをねうそ 手三隕  
從藏走至手。謂手太隕起中焦。至出大指之端。手  
少隕起心中。至出小指之端。ワ「アテコテニトニ  
アコトトント。大をよがせど」「は隕トロ  
さきのぐる墨者がある子「湯の中へ入る事のす」い「打坐」  
もまれぬけのつ盲ど「ひがひの触とりてぶわの盲がやど勘  
の触者ハアムアヘ。ア獨どまづりなぐく月代を刷。それつ  
云ぞりの見を抱て湯へ入る。イヤ奇妙よ「手巾を指ふ巻て  
は中を洗て居る。塩梅なんぞくうもくりん。目ゆまきをかうの塩  
盲目が京之上で。勝行松が深波の金毘羅まみくみ  
えちやア。此方かくといふじらの祕へせても等もちと性根處を

「アトトント。大をよがせど」「は隕トロ  
さきのぐる墨者がある子「湯の中へ入る事のす」い「打坐」  
もまれぬけのつ盲ど「ひがひの触とりてぶわの盲がやど勘  
の触者ハアムアヘ。ア獨どまづりなぐく月代を刷。それつ  
云ぞりの見を抱て湯へ入る。イヤ奇妙よ「手巾を指ふ巻て  
は中を洗て居る。塩梅なんぞくうもくりん。目ゆまきをかうの塩  
盲目が京之上で。勝行松が深波の金毘羅まみくみ  
えちやア。此方かくといふじらの祕へせても等もちと性根處を

變えまあれ。天明年中の狂きょうすか。廢わいうと廢わいうなどのかむるなり。  
性根じゆこんも。すはの玉たまでも。トトの狂きょうすかの。トトの玉たまを。狂きょうすかの。トトの玉たまの  
懶濶らけん亭てい。御宿ごしゆ。へうるや。と室珠むろじゅを。なぐさうと書かて。性根じゆこんの。おおが  
ああせせすす。ああしめめねね上方かみがたの狂きょうすか。づづと。首くび。休やす。天明  
年中ねんちゆうの。すす。江戸えどへ。ああぢやアア。ごごぜせすす。別べつ。そ。商しょう付ふ。懈けすすの酒さけ。  
一いつ面めん。よ。行ゆう。れ。う。其その眼まなこで。え。ちちや。小兒こどの戯戯れ。一いつ向むか。ふ。ほ。く。舞まい  
ゆゆの。すす。近ちか。ふ。おお。起起き。すす。おお。と。立た。く。凌さか。人ひと。へ。も。う。や。せ。ん。が。  
單たんたた。を。廢わい。くくとも。え。すす。は。し。あ。と。も。くくと。屁屁。かか。人ひと。あ。ま。え。

因いん字じ病びょうを。あある。が。狂きょう。すす。狂きょう。すす。と。い。すす。の。れ。も。そ。く。江戸えど  
と。そ。う。か。すす。近ちか。年ねん。は。ま。と。く。ひ。く。け。て。ま。く。う。よ。し。よ。一いつ。高たか上じよう  
ななく。そ。す。す。よ。く。上方かみがたの。ほ。すす。と。う。は。ま。と。甘あまい。と  
り。く。懈け。諧けい。すす。

一ひとつは。ま。て。め。ひ。ご。の。あ。と。へ。撞はじ。り。公こう。あり。明あ。の。月月。や。又。ま。ん。サ。  
と。う。も。妙めう。ご。す。亮角素りょうかくそ。人ひと。狂きょう。すす。も。薦すす。首くび。も。あ。と。松まつ。也。妙めう。  
か。ト。是これ。是これ。あ。や。ま。る。儉約けんやく。と。惜惜きき。水仙すいせん。と。葱葱。の。ね。く。形かたち。似にて  
非ひ。か。う。う。り。の。で。則そ。ち。狂きょう。す。薦すす。首くび。そ。の。通とおり。で。あ。ぎ。く。そ。中なか。に。り

地ぢを交かり狂文きみうぶを書かり。狂手きみうでを喰くる者は皆みなも  
初心はじしんの者ものは毒どくを流ながす。トとよき風景ふうけいののま  
出でて色いろ所しょアキラヒアキラヒヤ是これを毅鳳景ぎふうけい。妓ぎ  
子こトトドド俗ぞくのを談だぐるよりよやど上あ下さるのびトと西に方がたののち助  
保ほイヤイヤヤ皆みなの搔かぢぢやや。番頭ばんとう一一す一一盃ぱい湯ゆを經へすれ  
ませ。此この茶灌ぢあん半はん身み金かなちち又またかかくく。ひきし  
ととのききハテ其その程ほりううきき。たうたうははも涌よてああれ湯ゆぢぢ。  
禪ぜん肉にくで涌よきのの六ろく文ぶんが炭たん火ひ。むまむま人ひとのの薪こな

越こて大お通とお涌よきののうええもかかくく。イイ、立たたりりややすん  
飛とくくい毒どく性せいアトよよききと有あ無む之し仕し業ぎょう。ああくくや  
りうえり債さいをここ人じんををかかねねトとよよびびやや。トとよよびびややとと番頭ばんとう。  
さんさん其その代しろかかせ。今いまは宴うたげへああううがが。玉たまの隣隣となりのサ茶灌ぢあん高たかい  
苦くるな節せつやや。あまり毒どく性せいは奴やつぢぢささい。室むろ屋やの茶灌ぢあん食く  
ををほほゆゆて食くららせせままく。室むろ屋やの茶灌ぢあん食く  
るる其そのああまりまへ昇の算さん入いやや振ふ舞まい。ああららかかままいいて  
食くて仕し業ぎょう。ままごごア酒さけ候まわるるささい。ちち毎まいと外ほかトト。

今の男平生隠氣にて虫を食ふ。すがとく「イヤけち助  
あらマリトヒモセドアマシタキトキスルモタカヒナムク  
さん。もチトシノ間か宴へまえども。ヤシト醉<sup>キ</sup>。ゲ  
フウ。ア只今ミ大吉<sup>ホ</sup>山<sup>タケ</sup>社<sup>サカニ</sup>御<sup>ミ</sup>神<sup>ミ</sup>御<sup>ミ</sup>御<sup>ミ</sup>  
醒<sup>キ</sup>。惜<sup>カ</sup>いりん<sup>ス</sup>ゲイリ。今<sup>ク</sup>ト一<sup>チ</sup>行<sup>ハ</sup>く<sup>シ</sup>空<sup>ム</sup>。ヤク  
ビキ<sup>テ</sup>。キタ<sup>ヒ</sup>。カタ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。アシ<sup>ヒ</sup>セ<sup>ム</sup>カタ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。  
我言<sup>ミ</sup>の<sup>テ</sup>助<sup>ム</sup>踊<sup>ト</sup>き<sup>ム</sup>。アシ<sup>ヒ</sup>セ<sup>ム</sup>カタ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。ニリヤ  
モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>。是<sup>モ</sup>キ<sup>ム</sup>。止<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>。カタ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。

き<sup>ム</sup>。ヨリヤ<sup>ム</sup>なぞ此<sup>シ</sup>形<sup>ハ</sup>キ<sup>ム</sup>。もね<sup>ム</sup>もキ<sup>ム</sup>  
あれ極<sup>ム</sup>。正<sup>サ</sup>く。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>と<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。ヤ<sup>ハ</sup>意<sup>地</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。アシ<sup>ヒ</sup>  
モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>。ヨリヤ<sup>ム</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。正<sup>サ</sup>く。  
お<sup>カ</sup>シ<sup>ム</sup>。ヨリヤ<sup>ム</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。歩<sup>ム</sup>と<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>  
正<sup>体</sup>を<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。テ<sup>タ</sup>テ<sup>ト</sup>ン。  
き<sup>ム</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>  
ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>  
モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>  
モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>。モ<sup>タ</sup>シ<sup>ム</sup>ト<sup>タ</sup>タ<sup>リ</sup>

「五テト。」  
「五テト。」  
「手三陰」  
「あれひひす」  
「從藏走至手  
とこあく。」  
「よやまき」  
「手三陽」  
「からそん」  
「手より  
走。」  
「よやまく。」  
「足の三陽」  
「わらうまのさ。」  
「ヨリ」  
「合足」  
「頭走そもす。」  
「これより相手でゆく。」  
「アまで  
そくと合足。」  
「足の三陰」  
「ひ下」とく。」  
「もろそ  
ちりへる。」  
「リヤもかびぐ。」  
「うちと腰が減ふ。」  
「リヤもどと  
もとこおどとてん。」  
「リヤもあふむ。」  
「乗地の二人狂言辨能  
の戯れも。」  
「三編」とぞひ意よ恵ひ是非四編目のゆ望ふ。

ヲットまつての早合足。作者も俱ふ諭きを。  
机上よ筆と踊ふとのみ。

顔乃薬  
兼用あらゆること。代百文  
代五文  
あらゆること。人まじめのうらうど  
ねうど。かうふうとけをうとけをうとけづけ  
かうふうとけをうとけをうとけづけ  
吉剣正月二日よ

諱話浮世風呂第四編卷之下畢

無類  
名方

あらわ黒藥

すくせまちかうめがまき

代五十文

首あらわをどう お樹義 三十六文

ゆゑひ袋蘭奢袋

全百足

金百足 金百足 金百足 金百足

山兜百日せと武の奇薬

代百文

相入ほそみびき 五十文 三十二文 五十四文 五十五文 五十六文

金百足

金百足 金百足 金百足 金百足 金百足

金百足 金百足 金百足 金百足 金百足

金百足 金百足 金百足 金百足 金百足

金百足

ほ世風呂山編跋

一

式亭三九郎車け馬乃友あつ。性素  
よし出辨。生年の命譚 すふ鉢。古に  
人いぐれ向くあき。且語のふき。  
人等。賣室け騒人。野奢の  
あり。居市仲よやく。内うち隠き。

別の事。家事の事も有り。祖あられ。言語  
通ふ。アリ。アリ。疎高輪と申す。形實  
を辭す。據めも利害興せ端です。  
おぞく事の結文。散る。圓す。柔も  
ワジ。独得。辞。刮。也。陰和あらず。  
陽柔ある。も。も。も。も。も。

は。け。往。ノ。好男。あ。ま。通。假。ヒ。シ。  
滑。輕。年。と。よ。漫。き。詮。皆。草。う。い。考。  
酒。底。酒。底。酒。底。酒。底。酒。底。酒。底。  
胸。中。式。亭。の。腰。恰。も。坐。風。春。月。日。



